



平成22年度 東北農政局長賞

「住んでよかった。住んでみたい。」緑の山波がつらなる 理想郷づくり

『グリーンウエーブ入谷構想促進委員会』

(宮城県本吉郡南三陸町 入谷地区)

【むらづくりの経緯・動機等】

◆入谷地区は、南三陸町の中心部から北西に4kmほど離れた場所に位置する農山村である。◆かつて盛んだった養蚕業の衰退や農業従事者の高齢化等により、地域の活力の衰退が懸念される中、昭和61年、入谷地区の有志で組織していた「入谷を考える会」が中心となり、より良いむらづくりを実践していくための新たな組織の立ち上げの検討を始めた。

◆地域が一体となって取り組んでいかなければ地域の活性化は図れないという思いから、地域内の各行政区長を説得し、平成3年に全行政区の全戸(519戸)が加入する「グリーンウエーブ入谷構想促進委員会」を発足した。◆地域にある潜在的な資源を活かし、「住んでよかった。住んでみたい。」というむらづくりのために、各種活動を展開している。

＜位置図＞



【推進体制】

◆グリーンウエーブ入谷構想促進委員会には、都市住民との交流活動や地域の環境保全活動を行う「青年部」・「婦人部」、手作りの直売所で地場産品の販売等を行う「直売所運営部」、遊休農地や山林へ花桃、杏等の植栽活動等を行う「桃源郷部」の4つの専門部会が設置され、各種活動を展開している。◆このほか、近隣の五日町商店会と連携した桃源郷構想の推進や、青年部が中心となり町の観光協会と連携してグリーン・ツーリズムの取り組み等も行っている。

＜地区の概要＞

事項	内容	
地区の規模	大字単位の集団(10集落)	
組織の性格	機能的な集団	
農家率 (内訳)	44.7 %	(総世帯数 519 戸) (農家数 232 戸)
販売農家数 (内訳)	232 戸	(専業農家 32 戸) (1種兼農家 24 戸) (2種兼農家 176 戸)
主要作目 (作付面積)	水稲 (47.6 ha)	野菜類 (5.5 ha)
		花き類・花木 (6.1 ha)

資料：国勢調査、農林業センサス(H17年)

【農業生産面への寄与状況】



◆平成12年に地域住民手作りの直売施設としてオープンした「入谷サン直売所」は、町内外の固定客を中心に好評を得ており、売上も年々伸びている。また、地区内農家が誰でも出荷できることから、生産意欲の向上にも繋がっている。◆さらに、直売所での販売拡大や耕作放棄地の解消のために、女性グループが新たに「ビーンズ

くらぶ」を結成し、遊休農地を活用して枝豆やちぢみ雪菜の生産を開始しており、今後は、生產品目を増やし、学校給食への食材提供や地元イベントでの販売、農産物加工への取組み等も計画している。

【生活・環境整備面への寄与状況】

◆入谷の郷土の歴史を体験できる町の施設「ひころの里」を会場にして、盆踊りや秋まつりを毎年開催し、町内外の人との交流を行っており、来場者は年々増加している。

◆また、平成18年からは、委員会の女性メンバー7名で結成した「ひころレディース」がひころの里の管理者となり、繭細工作りの体験講習や地元食材を活かした食事



の提供を開始し、好評を得ている。◆さらに、平成21年度からは、ひころの里周辺の森林を活用し、遊びと癒しの空間を創設する「ひころの里山づくり」の取組みが開始され、この空間を活用した体験学習、自然観察等が計画されており、今後の展開が期待されている。